

第 27 回 高知県四万十川流域保全振興委員会（議事録概要版）	
日 時	令和 5 年 3 月 22 日（水） 13:30～15:30
場 所	四万十町役場西庁舎 3 階防災対策室
出 席	主席者名簿のとおり
議 題	1 四万十川流域住民意識調査について 2 四万十川条例に係る令和 4 年度目標指数の取りまとめ方法について 3 その他（情報共有）
配布資料	別添参照

（開会）

- ・委員 14 名のうち 13 名が出席。過半数の委員出席により、委員会の成立を確認。
- ・会長、副会長の選出：会長に中越委員、副会長に平塚委員を選出

【議題】四万十川流域住民意識調査について

事務局：資料 1、参考資料 1 により説明。

1 水生生物、河川環境について

委 員：年によって違うが、上中流域ではそれほど生き物が減っているとは思えない。

委 員：四万十川下流域におけるテナガエビ属の入荷量は 2009 年をピークとして著しく減少した。その後、2018 年 9 月から各年 7 か月間の捕獲規制が始まった。現時点では、減少のスピードは止まった気がするが、過去と比較すると依然として低い値が続いている。

委 員：ウグイ、ハヤ、それからウナギはものすごく減少していると思う。ウナギの餌になるハヤもなかなか捕れない状態だ。また、梶原川の河川環境が年々悪化している。

委 員：（梶原町では）今年の冬は水不足が深刻で、これは山との関わりが深いと思う。昔は雪がずっとあったが、雪も雨も降っていない。

委 員：山陰地方では、積雪量が減ると川の汚染度が高まることになっている。

2 アンケートの集計結果について

委 員：年齢の高い方のアンケートの回答率が高いことから、公平なアンケートの集計結果と見ていいのか。また、アンケートを全年齢で回収率を上げるにはどうしたらいいのか考えたとき、四万十川財団が講演会等を開催したときに後でアンケートを取るのはどうか。

四万十川財団：イベントや環境学習のときに、アンケートを取る機会はある。

事務局：若年層の回答率の向上は課題とっているので、次回調査で検討が必要。

委 員：次世代の子供たちが一体なにを考えてどのように認識しているのか別に調査をしたほうがいいのでは。情報が集まっていないことが指摘内容と思う。

他のテーマになるが、(四万十川に) 出かける人は増えたが、活動への参加は減っている。コロナの影響という解釈の注意書きもした方がいいと思う。

事務局：本体の報告書にはコロナの影響があったことの記載がある。

学校での環境学習については、目標指数でもあるのでアンケートを取っている。四万十川財団を紹介したり、我々が出向いて環境学習の普及に努めたい。

【議題】 四万十川条例に係る令和4年度目標指数の取りまとめ方法について

事務局：資料2-1、2-2、2-3、2-4、参考資料2により説明。

委員：農水省の土地利用に対する提言が2つあり、そのうちの1つで作物を作らず景観作物にするという粗放化が初めて出た。農地の管理がしにくくなり、粗放化で景観保全も含めてどうするか。また、四万十川沿いのIターンの方が農林業に従事されていて、その方を人口減少の考え方にどう埋め込んでいくのか。

委員：田舎は旧態依然としていて有機肥料による農作物作りに抵抗があるため、Iターン者による農業の改革が非常に重要だ。また、ブランド認証や四万十川財団の認知度、そういう認知度を上げる方法を指標の中に組み込まなければ改善しない。

委員：7市町のひなまつりの連携講座の四万十町での第1講座で「重要文化的景観をしているか」という問いに対して答えはゼロだった。発信の仕方に問題があると思う。SNSを使える高齢者を育てることが非常に重要だと思う。

委員：雇用のため農地をまとめようにも地権者が散らばっており、うまくいかない。林業も伐採数や従事者も増えていない。プレイヤーが消えていくことが一番残念。

委員：県に聞くが、四万十川流域での企業支援は無いのか。

事務局：各市町村で企業支援計画を作成しているが、全ての市町村が作成しているわけではない。また、具体的に支援メニューを今は把握していない。

委員：住民は四万十川の資源を全部分かっているとは思えない。やはり若い世代に流域に来てもらう、住んでもらうことが大事だと思う。

事務局：目標指標にある農家民宿は高齢化により件数が激減している。しかし若い人たちがB&Bを初めて何軒か加わっている。

委員：農家民宿の項目に遡ってB&Bを加えることは構わないか。

事務局：構わない。

委員：OECMの参考資料に関して追加情報を提供する。令和5年4月から自然共生サイトの申請受付となる。令和5年度は100カ所程度認定予定であり、これから増えていくだろう。試行段階では高知県は2事例ある。

委員：指標はどのようなスケジュールで変更するのか。

事務局：来年度の当委員会で指標の変更案を提示する予定。

【議題】 その他（情報共有）

委員：指標ではないが、梶原川が非常に汚い話はよく聞く。管轄が県の河川課なら相談してくれないか。

事務局：管轄は県の河川課。話をしておく。

委員：今問題になっているサンジャクが結構飛んでいる。サンジャクは駆除対象ではないはずだが。

事務局：対象でない。被害の因果関係の調査が必要なので、来年に生息状況の調査を行う予定。

委員：台風の後に来たビニール等が最近無くなっていることや、濁水期の白い汚れが最近見えない。改善されたものもある。

委員：カワウやアオサギなどの鳥が魚を食べる。駆除すれば町が3,000円くれるが猟師がそのためには来ないからなんとかしてほしい。

委員：水質は下流が汚いだけで決して劣っているとは思わないがどうか。

委員：四万十川の石を触ると汚れがついている。

委員：火振り漁をすると網が真っ黒になる。昔のアユは内蔵が綺麗だが、今は泥だらけ。

委員：汚れが話題になっているが、アンケート期間は異常濁水で状態が非常に悪い。これは年によって違うかもしれない。

委員：川の透視度が非常に低くなっている。四万十流域でもシカが増えてきており、食害により砂が川に流れて河道が固定化される。アユは河道が固定化されて河床が硬くなると産卵しにくくなる。

四万十市：本村の奥はシカが多い。四万十川上流域ではどうということはないが、剣山山溪は土砂崩壊まで発生している。

委員：四万十ブランドの代替案はないのか。

四万十川財団：考えていない。

事務局：財団でやっていくのは難しい。県の農業に関する認証も根付いていない。

委員：文化財のマークがすぐに使える。文化財課が担当か。

事務局：文化財課に話しをしておく。

(閉会)

第27回高知県四万十川流域保全振興委員会 出席者名簿

敬称略

区分	所属団体等	役職名	氏名	備考
委員	紙漣体験民宿 かみこや		アウテンボーガルト千賀子	WEB出席
	高知大学 教育研究部総合科学系黒潮圏科学部門	教授	飯國 芳明	
	水生物研究者		石川 妙子	
	植田興業(株)	代表取締役	植田 英久	
	高知大学 教育研究部(地域協働教育学部門)	准教授	岡村 健志	WEB出席
	四万十川東部漁業協同組合	代表理事組合長	武政 賢市	
	津野町商工会	会長	谷脇 幸秀	
	広島大学	名誉教授	中越 信和	
	四万十川総合保全機構	会長(四万十市長)	中平 正宏	欠席
	(株)山間屋	会長	中脇 裕美	
	四万十川流域住民ネットワーク	代表世話人	西内 燦夫	
	地域づくりの会しゃえんじり	代表	平塚 聖子	
	NPO法人 高知文化財研究所	代表	溝渕 博彦	WEB出席
	環境省 北海道地方環境事務所野生生物課		山下 慎吾	
オブザーバー	四万十市環境生活課	四万十川・環境係長	正岡 研二	
	四万十町企画課四万十川振興室	室長	中井 智之	
		主任	坂山 陸	
	津野町建設課		三本 純	
	梶原町環境整備課	係長	吉岡 まどか	欠席
	(公財)四万十川財団	事業スタッフ	羽方 優起	
	国土交通省中村河川国道事務所 計画課	課長	宮地 憲一	WEB出席
四国電力(株)窪川水力センター		白石 和樹		
		有澤 元希		
事務局	高知県林業振興・環境部自然共生課	課長	河野 和弘	
		課長補佐	和田 こずえ	
		チーフ	遠近 知代	
		主幹	福井 剛志	